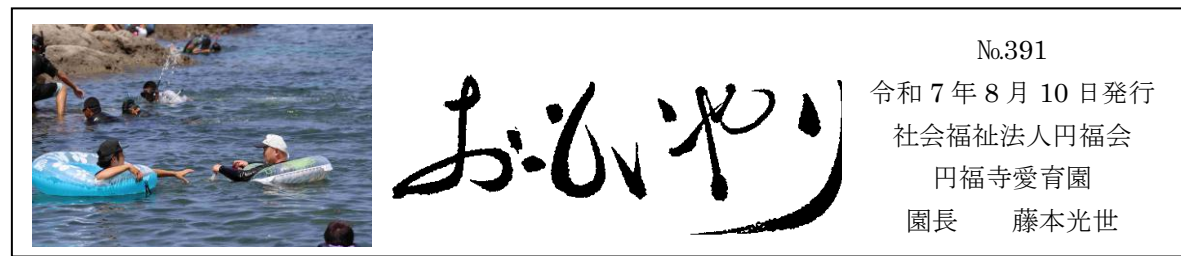


海行事は好天に恵まれ、海もきれいで、大満足の日になりました。



職員の献身

園長 藤本光世

夏休みになり、今年度第2回目の全体行事の海行事が、無事に安全にしかも子どもたちが大満足で、円成しました。職員の皆さんありがとうございました。

一つの行事を無事円成させるには、下見から始まったたくさんの準備が必要です。勤務時間を超えて、子どもたちのために準備して下さった職員に敬意と感謝を表します。



臨海教室や子どもの指導で、先生方が頑張ってくれているころ、職員会で奥井潔先生の『WorkとLaber』のお話をしました。それは、次のような内容です。

(令和 7 年 8 月 10 日発行 月刊「円福」539 号付録)

平成 9 年ですから、もう、約 30 年近く昔になるでしょうか。屋代高校の教頭をしていた時のお話です。ご縁があつて駿台予備校の奥井潔先生においでいただいて、生徒と共にご講演を聴くことができました。

奥井潔先生は駿台予備校で 40 年も英語の看板教師として教鞭をとられた方です。当時、駿台予備校におられた山口博伸氏（のちの駿台甲府高校長）に、どなたかいい進路講演会の講師をとお願いしたところ、奥井潔先生のお名前を出されて『駿台で 40 年も英語の看板講師としてエースを張っているのは大変なことだ。英語だけでなく、人生について、とか哲学的なことも話せる人だ』と紹介していただきました。私は期待していました。

ご講演の内容を、当時のある学級通信から引用しましょう。

1. 青春とは、何になったらいいか分からないのに、何かにならなければならない時期が近付いているという焦燥感に駆られるものである。
2. 青春とは、過ぎ去ってみて初めてその有り難さが分かる。その真っただ中にあるものは、その大切さを自覚していないだけだ。
3. 何でもなれるということは、何ものでもないということだ。君たちはまだ何の生産活動もしていない寄生虫のような存在だ。ゼロにして無限の可能性を持つもの、そういった意味で青春とは逆説的な存在に近い状態だ。
4. 生きるということは、たくさんある可能性の中から一つのみを選び、他を断念することだ。
5. ある大学のある学部、学科を選ぶということは他のいくつかの職業の可能性の範囲を著しく限定することだ。よって最も重要な選択になる。
6. 「labor」とはやっても面白くない仕事のことを言い「work」とは喜びと生きがいを感じ、面白いと思ってやる仕事のことだ。我々は「worker」にならなければダメだ。
7. 自分は何になりたいのか、何を愛すべき仕事とするのか決定すべきだ、これが青春期の仕事であり、worker への第一歩となる。

ご講演は、私にとって期待通りのものでした。余談ですが、お茶を飲みながら先生とお話しし、お聞きしたことを箇条書きします。

1. 教師にとっても授業は予習が命

例：ある文章の訳を、文語体、である、ます、のどれにするかまで考える

2. 授業は常に新鮮でなければならない

私は、毎年授業に臨むにあたって、新しく授業案を書いていたので、この言葉は非常に腑に落ちました。

3. 生徒から学ぶ、教師が学び続けること

愛育園でいえば、職員は常に 子どもから学び続けること です。

4. 英語を教える（学ぶ）には現代文の素養が必要

太宰治と志賀直哉の文体の違いが分からなくて、英作家の〇〇〇と、△△△の違いが判るだろ

うか。…このことはたびたび繰り返しておられました。

5. 読書の習慣をつける。新入生に対する読書指導の大切さ

円福寺愛育園の職員が **worker** であってほしいという願いを込めて、職員会でお話したのです。**worker** と **laborer** の定義をされた方は、ハンナ・アレントさんという社会学者だそうです。

labor とは、それを毎日やっても、本人が面白くない仕事。この仕事をしないと生活していけないので、嫌々ながら、やむを得ずやっている仕事の事です。そういう仕事に日常携わっている人を **laborer** と定義し、別名「賃金奴隷」というのです。

work とは、本人にとって悦びと生き甲斐を感じている仕事です。しかもその仕事は、社会生活を人間が円滑に営むためには必要不可欠な仕事、社会的価値を持つ仕事であるがゆえに、社会が金銭的価値を持って報いてくれる。

そして、ある人が **worker** か **laborer** かの区別は、レジャア (leisure) に対してとっている態度で見分けることができるのです。ワーカーにとってはレジャアなんか知らないんです。

ところがレーバラーにとっては、レジャアこそ大切、命です。

さあ、皆さんはどうでしょうか。

愛育園の子育ては、とっても大変です。子どもたちはエネルギーがあります。行事は準備が大変です。休日は公園やプールに遊びに連れて行きます。遊びがだんだん大きくなって、海釣りやスキーに何度も行くようになりました。職員には、エネルギーが要ります。暑い中です。疲れるでしょう。子どもはいろいろなトラブルも起こします。不穏な空気もまき散らします。しかし、遊びの時、行事の時の子どもの喜ぶ姿、笑顔を職員の喜びにして欲しいです。生き甲斐にして欲しいです。そして、トラブルや不穏な対応に、自分の成長を重ねて欲しいです。そうすれば、きっと、この仕事が、他の仕事では絶対に味わえない、喜びと生き甲斐がある、感動的で素晴らしい仕事になると思うのです。

職員の献身に感謝し、準備や片付けの動きの速さに驚き、職員や子どもの成長を感じ、**worker** となって更なる成長を願い書きました。

第4回 臨海行事

主任指導員 T.M

1学期が終わり、子ども達にとって楽しい夏休みを迎えています。暑い日が続いていますが、子ども達は元気に過ごしています。7月27日には、第4回目となる臨海行事に行ってきました。

もともと臨海行事は、近くの山や川へ遊びに行つては、昆虫、カナヘビ、魚を夢中になって捕まえようとする子ども達の様子から「海に連れて行ってあげて、海の生き物を捕まえて来たらとっても喜ぶぞ」と園長先生が発案して下さいました。

第1回目は、沢山の海の生き物を捕まえる事ができましたが、第2回、第3回は、天候不良で波が高く、水も濁り切っており全く魚を捕まえる事ができませんでした。とはいえ、普通に海水

浴はする事ができ、それはそれで子ども達も楽しそうにはしていたのですが、やっぱり発案のきっかけになった「夢中になって生き物を捕まえる」を経験させたいと思い、第4回の今回は、磯採集をメインにする事を子ども達に意識づけるとともに、天候良好になる事を祈っていました。



7月に入るとずっと快晴が続き、下見で海に行った際も、波が穏やかで、透明度も高く、当日もこんな天気になってほしいと心から願っていましたら、非常にいい天気に恵まれました。けれど、1つ心配な事がありました。1学期の終盤は暑さの疲れや学校生活の慣れによって、日課の乱れや、子ども達同士の些細なケンカが目立ち始めました。こういう状態そのものが心配という事もありましたが、一番心配に思ったのは職員の話が聞けていない事でした。全体に向けて何か話をしても、どこかボーっとしていたり、自分の事として話を聞こうとしない姿勢の子が散見され、「このまま海に行ったら事故が起きてしまう。」と非常に危惧しました。

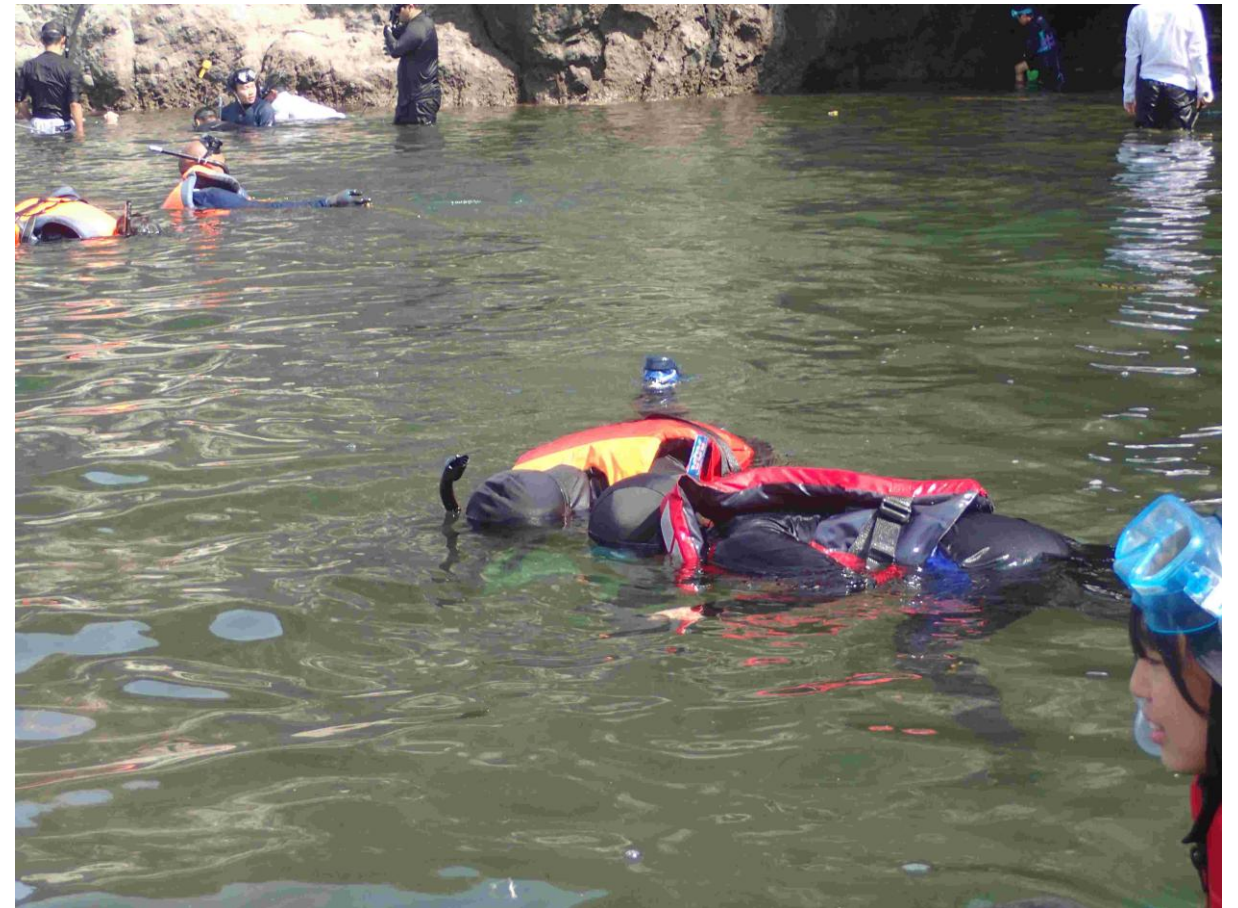
臨海行事の数日前からは、子ども達にしっかり耳を傾けて、落ち着いた気持ちで人の話を聞く事を毎日伝えました。そして当日、出発から準備や荷物運びから非常にキビキビと動いてくれている子ども達の姿がありました。素晴らしく感じたのは高校生たちが率先して荷物運びや片付けをしてくれ、小さい子になるべく長く遊べるようにしてくれた事です。特に片付けでは、まだ遊んでいい時間に先回りして職員のお手伝いをしてくれた姿には年下児童への思いやりを感じました。実際の所、中高生の何人か(2名)は小学生に交じって、時間ギリギリまで遊んでいましたが、きっと磯採集や海遊びがよほど楽しかったのでしょう。そういう姿もおおぞらホームらしい

光景でありました。



「人の話を聞けていないよ。」という注意、つまり生活が傲慢になっているよという注意は、あまり受け入れたいと思う注意ではありません。認めたくない注意です。子ども達は何よりも成長しているなあと嬉しくなったのは、それを自分で省みて素直に聞き入れ、実際に行動として改善出来ていた事です。臨海行事の本分とはズレてしまう所もありますが、私は、そんな中高生たちの献身的な行動に自立成功への道を進められている事を感じました。それは、8月4.5日で行ってきた「愛育園キャンプ」でも存分に発揮されていたので、来月号でお伝えしたいと思います。肝心の磯採集の方はというと、男の子も女の子も一生懸命網で魚を追いかけてまわし、あちこちから「捕まえたぁー」と興奮気味の声が上がっていました。魚や貝など10種類以上は捕まえたのではないのでしょうか？そして、疲れたら浮き輪やライフジャケットを着用してプカプカ浮いたり、終始、海を楽しんでいる様子がありました。

帰ってきてからは捕まえた魚を水槽に移し替え、海水も持ち帰ってきて飼育を開始しています。海の生き物を長生きさせる事は難しいのですが、毎年経験を積んできて、年々上手になってきています。頑張って来年の第5回臨海行事まで子ども達と大切に育てて行きたいと思っています。



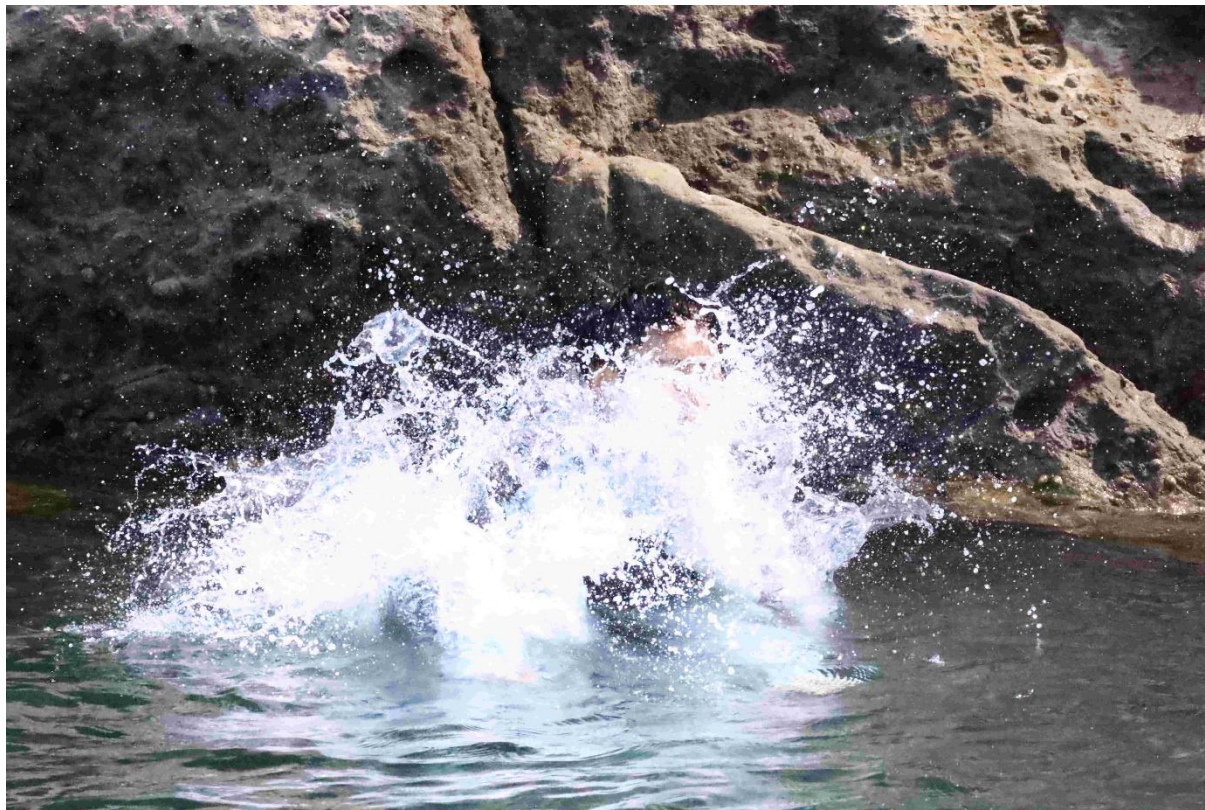
臨海行事

あおぞらホーム F・K

7月27日、今年も鯨波海水浴場に行き、臨海行事を行いました。

去年は、天候に恵まれず、海も濁り波も高かったのですが、今年は天気も良く、波も穏やかで海もきれいで、コンディションとしては最高の日に臨海行事を行うことが出来ました。

波も穏やかで海もきれいだったこともあり、生き物採集はとってもしやすく、子どもたちも浅瀬で小魚やカニ、貝などをとったり、深いところに潜って魚を捕まえたりと思い切り生き物採集を楽しんでいました。高校2年生のKくんは深いところで網を使って魚を捕まえると大きな魚が捕れたと嬉しそうに見せてくれました。小学4年生のMくんもカニを捕まえたことを嬉しそうにしている姿がありました。幅広い年齢のいる園の子どもたちもみんなが楽しく過ごすことが出来ました。生き物採集以外にも、浮き輪やボート、ビーチボールで遊んだり、飛び込みをしたりと、海を全身で楽しむことが出来ました。



(令和 7 年 8 月 10 日発行 月刊「円福」539 号付録)

また、子どもたちは遊ぶときは思い切り遊ぶのですが、荷物を運んだりと言うようなお手伝いもしっかりやってくれる姿があり、愛育園の子どもたちはやっぱりすごいなと改めて感じました。来年度の臨海行事も楽しみです。

臨海行事

まごころホーム T・M

今年も臨海行事に鯨波海水浴場に行ってきました。小1から高3までの子どもたちが参加しました。今回の臨海行事のテーマが、たくさんの海の生き物を捕まえるというものだったので海に行く前からどんな生き物がいるのか、子どもたちと話したり調べたりしながらとても楽しみにしていました。当日は天気がとても良く波も穏やかで、磯採集にうってつけでした。



まず浅瀬で小1のAちゃんと小さなクサフグを捕まえました。最初は網がうまく使えず苦戦していたAちゃんでしたが、慣れるとたくさん獲れるようになり、「見て見て！」と色んな人に見せ、とても嬉しそうでした。次に、ライフジャケットとうきわを着け、少し深いところに行ってみました。足のつかないところもあるくらい場所だったのですが、プカプカ浮いてすごく楽しかったです。子どもたちのほうがすいすいと奥の方まで行って着いていくのに必死になっていました。プールなどでは味わえない体験ができ、子どもたちも充実した表情をしていました。帰っ

てきてから捕まえた魚たちを水槽に入れました。そこから毎日のように水槽を見て楽しんでいきます。とても思い出に残る行事になったと思います。

児童の感想

「りんかいがくしゅう」

小1 Aさん

おさかなをいっぱいつかまえてたのしかったです。うみでおよげたのしかったです。T先生とN先生とおよぎました。うみにはじめてはいったのがたのしかったです。うきわにのっておよげたのしかったです。おひるはうどんをたべました。おいしかったです。じゅうすをのみました。おいしかったです。M先生といっしょにぼーとにのりました。たのしかったです。



「臨海学習」

中3 Sさん

今日はみんなで新潟県の鯨波海水浴場に行きました。愛育園に来て初めての行事だったけど、とても楽しかったです。最初は少し怖かったけど海がとても穏やかで怪我や事故がなくみんなで楽しく一日を過ごせました。一番思い出に残ったのは、みんなで楽しく魚を捕ったことです。この臨海学習でよかったとおもったことは、愛育園に来たことです。理由は二つあります。一つ目はたくさんいろんなことに挑戦したり、出かけたりすることです。普段出来なかったことや苦手なことがたくさんあるけど、先生方の応援や声かけで自分から挑戦しようと思えるからです。二

つ目は、大きな行事があることです。自分の苦手な集団行動も克服できるし、自分の未熟なところも気付けるからです。最後に、本当に海行事楽しかったです。楽しい行事を考えてくださり、ありがとうございます。これからお手伝いも頑張ります。最高に楽しかったです。

「海行事」

高3 Rさん

7月27日に、新潟県にある海、鯨波に行きました。今年の海は前回と比べてとてもきれいで波も穏やかですごく良かったです。今回は生き物はあまりとらず、泳ぐことに専念しました。でもミニクラゲを見つけました。すごく貴重でした。ライフジャケットを着たことで泳ぐのも楽しかったです。ボートに乗ったり、ボールを使ってバレーをしたり、とっても楽しかったです。なかなか体験できることではないと思うので、すごく良い思い出になりました。また一つ行事が終わり、早いと感じています。残りの時間を大切に園の生活を頑張っていきたいです。



楽しかった海行事

あおぞらホーム 小6 A.Y

7月27日に海行事に行きました。出発式をやってバスに乗りました。バスではレクがとても楽しかったです。海について、荷物を下に運びました。磯採集をしました。魚やクラゲとエビやフグを捕まえました。たくさんとれてとてもうれしかったです。つかまえるのが難しかったけど捕まえられてよかったです。お昼にはうどんを食べました、とても美味しかったです。午後ではビ

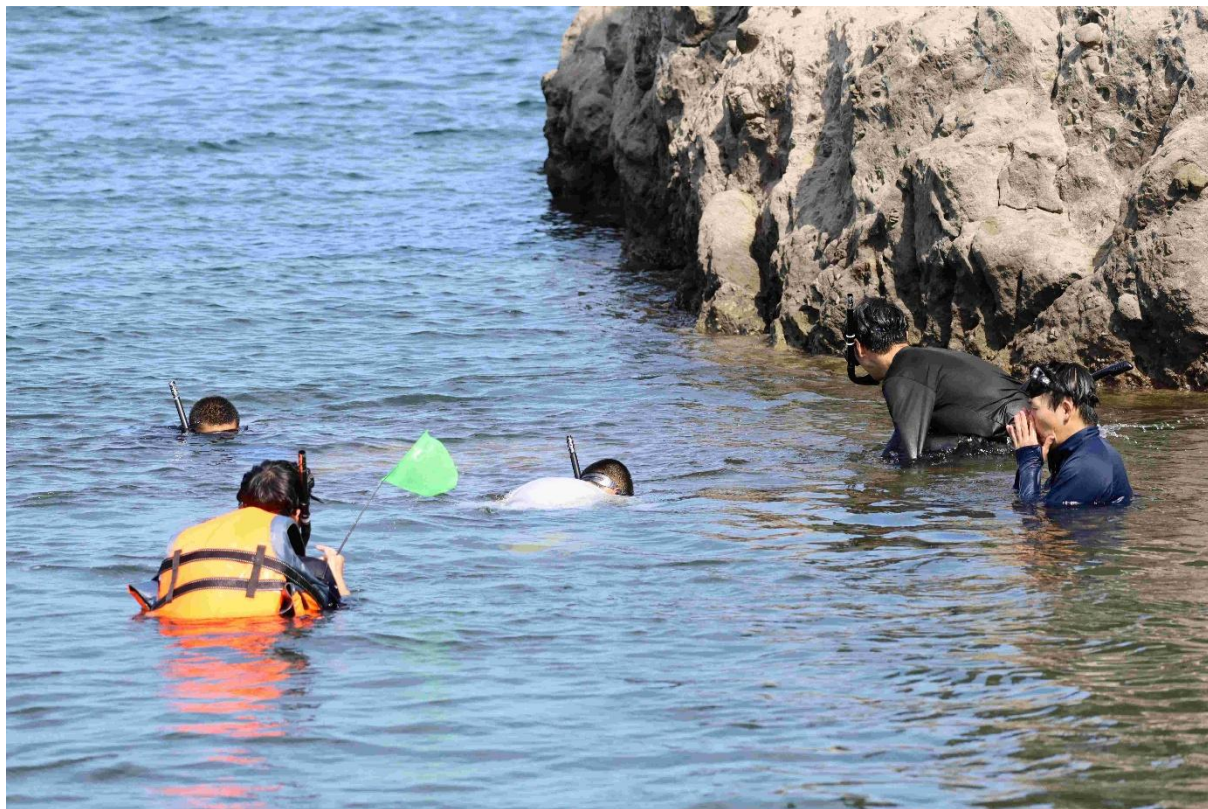
<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

一チバレーをしました。とても楽しかったです。泳ぐのもとても気持ち良かったです。帰りはバスに乗って帰りました。パンやこんにゃくゼリーなどとても美味しかったです。海行事はとても天気良かったし、魚をたくさん捕まえることができ、その中でも、クラゲと魚がとれて良かったです。海行事はとても楽しい思い出になりました。来年も天気良くとても楽しくできたらいいと思います。

楽しくよい、経験になった生物

あおぞらホーム 高1 F.K

今年も海に行ってまいりました。自分はこの愛育園の行事の中で一番と言っても過言ではないだろう、この日までずっと楽しみにしていました。また、今年は去年とは違い、夏晴れで、海日和でした。さっそく海に入り自分は魚を捕り潜りました。海の中はとてもきれいで一番下まで透き通るくらいでした。ですが思ったより魚がいなくておっかしいなー、と思いました。なので、いつも以上に本気で捕まえようとしてましたが魚が小さい、なので岩場の深い所に行きました。



そしたら、なんと20センチくらいのおコゼがいました。2メートルくらいの水深だったので、普通に取網に入れたら背骨のトゲに刺されました。すごく痛くやばいと思いました。自分はもしかしたら死ぬんではないかと思い、不安と怖さがありましたが大丈夫でした。今年の海行事はハプニングでしたがいい経験になりました。

(令和7年8月10日発行 月刊「円福」539号付録)

あおぞらホームだより

あおぞらホーム A・Y

梅雨も明け、連日厳しい猛暑日が続いていますが、一学期も終わりいよいよ子どもたちの夏休みがスタートしました。夏休みに入ってまず最初の行事は臨海学習でした。新潟県は鯨波へ行き、生き物採集をしたり泳いだりと、とても楽しい行事となりました。

毎年夏休みと言えば、恒例のキャンプ行事があったり、プール遊びに釣りなど、子どもたちが楽しみにしているイベントが沢山あります。今年の夏休みも子どもたちにとって楽しい思い出になるようサポートしてければと思います。

まごころホームだより

まごころホーム M・H

例年より暑い日が続き、体力の尽きない子ども達でも、登下校でくたくたになって帰ってくる姿があります。夏休みが始まって間もなく臨海行事があるので、まごころホームでは、休みの日にプールに行き、水に慣れたり、泳ぐ練習を兼ねて思いっきり遊びました。学校でも水泳の授業があるため、子ども達は、みんな水を怖がらず楽しそうにしていました。その成果もあり、臨海行事では海を存分に楽しむ事ができました。夏休みに入り、アクティブな活動をたくさん取り入れ、子ども達とたくさん夏休みの思い出を作っていきたいと思います。熱中症対策や体調管理には十分注意し、子ども達の様子に気を配って過ごしていきたいと思います。

調理室だより

栄養士兼調理員 K.H

毎日暑い日が続きますが子供達はプールに行ったり、体育館で遊んだり充実した夏休みを過ごしています。臨海学習が終わり、8月4日～5日のキャンプに向け、各班の食事メニュー決めや班旗作りなど準備が進められています。

【特別メニュー】

7日 セタメニュー

星のパン格拉タン、ちくわオクラの肉巻き、コンソメスープ、フルーツポンチ

19日 土用の丑の日メニュー

うな井、味噌汁、浅漬け、グレープフルーツ

【誕生日メニュー】

30日 Yくん誕生日メニュー

サンドイッチ、コーンクリームスープ、マセドアンサラダ、メロンゼリー